

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010130

政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 (前期総合計画から拡充による事業費増) 【平成30年度】中央線 L=880m(両側W=1.5m) 26,000千円
基本施策	16	交通体系の整備	事業優先度	B		
単位施策	1	道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	町道歩道整備事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	10 建設水道課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	整備延長			#N/A		
事業目標	3,320m		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働			関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容		
計 画 内 容	○町道歩道整備 【平成25年度】 公園通り L=670m(両側W=2.0m) 【平成26年度】 公園通り L=230m(両側W=2.0m) 臨港線 L=400m(両側W=3.0m) 【平成27年度】 魚田14号線 L=490m(幌内側W=1.5m) 【平成28年度】 魚田14号線 L=490m(沢木側W=1.5m) 【平成29年度】 雄武高校線 L=650m(両側W=1.2m～1.8m)	公園通り L=670m(両側W=2.0m)	公園通り L=230m(両側W=2.0m) 臨港線 L=400m(両側W=3.0m)	魚田14号線 L=490m(幌内側W=1.5m)	魚田14号線 L=490m(沢木側W=1.5m)	雄武高校線 L=650m(両側W=1.2m～1.8m)		
	事業費(千円)	92,000	16,000	30,000	13,000	13,000	20,000	
計 画 事 業 費	財源内訳							
	国庫支出金	0						
	道支出金	0						
	地方債	92,000	16,000	30,000	13,000	13,000	20,000	
	その他 一般財源	0						
実 績 事 業 費	事業費(千円)	44,706	15,330	29,376	0	0		
	財源内訳							
	国庫支出金	0						
	道支出金	0						
	地方債	44,400	15,300	29,100				
その他 一般財源	306	30	276					
関 連 事 項	特定財源の名称 ・起債(過疎)100%	【評価・実績】	(実施内容等) 公園通り L=680m(両側W=2.0m)  ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 公園通り L=230m(両側W=2.0m) 臨港線 L=407m(両側W=3.0m)  ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等)   ※事務事業評価結果	(実施内容等)   ※事務事業評価結果	(実施内容等)   ※事務事業評価結果	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	680m	637m	490m	490m	650m	
		年度達成率		96%	98%	0%	0%	0%
	第6期計画への継続 (継続無し)	全体達成率		17%	49%	49%	49%	49%
		事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆				

事業名	町道歩道整備事業	評価者	管理職 職氏名	建設水道課長	渡邊孝司
		評価者	作成者 職氏名	土木管理係長	田原慎也

様式1  
平成26年度実施  
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	歩道整備延長	
【抱える課題やニーズは】	歩道損傷による通行障害	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	快適な通行の確保	① 歩道整備延長/歩道整備延長	目標年度	平成26年度
			目標値	637 m
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	道路利用者の快適な通行の確保	②	実績値	637 m
			達成度	100.0 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	①民間業者による工事の実施	入札により民間業者に工事を発注し歩道整備を実施した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	道路利用者の快適な通行を確保することは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、快適な通行が確保された。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	本事業を実施したことで、快適な通行が確保されたことは、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
課題あり	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	快適な通行の向上が図られたことは、不特定多数の道路利用者に対して公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>A</b>		
町道の歩道整備を行い快適な通行の確保を図ることは必要であることから、計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向  
(Action)

継続/現状維持		
損傷が著しく歩行に支障をきたしている歩道の解消を行い快適な通行の確保を図ることは必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分  
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
○終了 ○休止 ○廃止